



明治大学校友会
柏地域支部

ホームページ



春のあけぼの山公園

白田会員撮影

http://members3.jcom.home.ne.jp/meiji-u.kouyuukai.kasiwa/

— 第6号 —

発行日 平成22年7月1日
発行 明治大学校友会千葉県
西部支部柏地域支部
発行人 宇都宮 幸正
住所 〒277-0066
千葉県柏市中新宿 1-2-21
電話 04-7173-7301
編集 山田 秋彦
☎ 04-7169-0333

P1: 第八回柏地域支部総会、千葉県西部支部総会、新春の集い
P2: 我が国農業の原点考察 (柳内隆平)、私が子供だった頃(加茂治男)
P3: 明早ラグビー観戦記(吾郷春男)、私と第九(勝俣清三)
P4: 定期ゴルフ大会報告、役員の変更、イベントのお知らせほか

第八回柏地域支部総会

平成二十二年六月十三日、三井ガーデンH柏において第八回柏地域支部総会が会員三十九名のほか、大学から校友課長高村淳様、西部支部長猪瀬主税様、近隣地域支部長様の御臨席を頂き開催され、昨年度の事業・会計報告、今年度事業計画・予算案が原案通り承認され、役員選出も提案通り全役員が再任決定致しました。

終了後、長年母校で教鞭をとられるかたわら、山岳部長を務められ、現在校友会流山地域支部長として活躍される小崎尚名誉教授より「明大山岳部の軌跡」と題するプロジェクトを用いた講演を頂き、植村直己はじめ数多くの優れたアルピニストを輩出した明大山岳部の業績と、今後の展望について御講話頂きました。

続いて開催された懇親会では、若い明治大学マンドリン倶楽部OBによる生演奏を聴きながらの贅沢な雰囲気の中で歓談を楽しみました。



総会 校歌斉唱・エール(6月13日)

第八回 明治大学校友会 柏地域支部 総会・懇親会



千葉県西部支部総会

平成二十二年五月九日、浦安プライトンホテルにて、明治大学校友会千葉県西部支部公開講演会・第七回総会・懇親会が開催されました。

第一部、公開講演会では、理工学部教授、校友会会長である向殿政男様をお招きして「我が国におけるロボット研究の最前線」と題する大変興味深い

お話を拝聴しました。

第2部、総会では大学常勤理事 日高憲三様、校友会副会長 鈴木銀治郎様、浦安市長 松崎秀樹様、千葉県東部支部長 椎名茂樹様にご臨席頂き、西部支部会員一六〇人(柏地域支部十五名)が出席して議事が審議され、すべて原案通りに承認されました。

第3部、懇親会では各地域支部の紹介やアトラクションを楽しみながらの歓談により、地域支部間の親交を深めたのち、校歌斉唱とエールにより盛大に終了しました。

新春の集い

平成二十二年一月二十四日、柏駅西口の麗宮飯店において、恒例の柏地域支部「新春の集い」が開かれ、三十二名の校友が集いました。新入会員の紹介などが行われ、歓談を通じて会員間の親睦を深めました。



新春の集い 校歌斉唱 (1月24日)

我が国農業の原点考察(二)



昭和35年法卒
柳内隆平

昭和十六年に東條英機内閣が成立して以降、日本の軍事情色が濃厚になり、農業政策にも波及しました。具体的には米生産農家に対する強権発動による、再生産に必要な農家の自家消費保有米を認めない供出制度です。我が柳内家でもその年の七月頃になると保有米が底をつき、二毛作といつて秋口に米作を収穫してから、次の田植えまでの間に収穫する大麦と小麦で、何とか食い繋いだものです。(勿論その間の畑作として六月下旬から晩秋にかけて収穫したジャガイモ・サツマイモ・サトイモ等で食糧を飾ることはできました。)政府の供出米割当制度は、我が国の食料不足が緩和するまで、強弱の差はありましたが、戦後長いこと続いたと記憶しています。

戦後大型農業機械が開発されるまで、一般農家の農繁期の労働力不足を、どの様に緩和することができたか、その知恵としての日本農業の原点を考察する必要ありと思います。一言で話すなら、集落農家間の「互助の精神」だと思えます。この「互助の精神」は江戸時代から存在する「結い」と呼ばれる慣習で、茅葺屋

根の葺き替え作業、田植え作業など、時期を外せず多くの人手を要する場合に、村人どうしが無報酬で助け合うものです。この慣習のお陰で、家族だけでは困難な作業を消化できたものと確信します。



筆者が耕したジャガイモ畑 (2010年5月撮影)

話題は前後しますが、昭和二十年八月十五日前後の我が国の敗戦関連の体験を抜きにして、この話を進めることはできません。八月十五日早朝のラジオ放送で、当日昼十二時から天皇陛下の玉音放送があるので、全国民が拝聴するようにとのアナウンスがありました。親父の勤で、多分戦争終結の話ではないかと話してしまいました。昨十四日、日本は連合国

のポツダム宣言を無条件で受諾した、という戦争終結の話でした。八月六日には広島に、九日には長崎に新型爆弾が落とされ、被爆地には七十二年間草木が生えぬとの朝日新聞の報道があり、親父もこれ以上の戦争継続は無理であると認識していた様子でした。

自分は小学四年生でしたが、大変なショックを受けた記憶があります。前年の晩秋には小学生全員で部落内の水田で落ち穂を拾い、終戦の年の夏休みの宿題は、夏休み中にワラビ、ゼンマイ等の食用山菜を乾燥して、一人一貫目(四キロ)程度学校に持参せよ、というものでした。(果たして自分がどの程度持参したか、記憶が定かではありません。)

現在、しみじみと当時の記憶を辿りますと、この様な状況では到底戦争に勝てる道理がなかったと、自分なりに懐古している次第です。

昭和三十五年法卒 柳内隆平

我が子供だったころ(二)

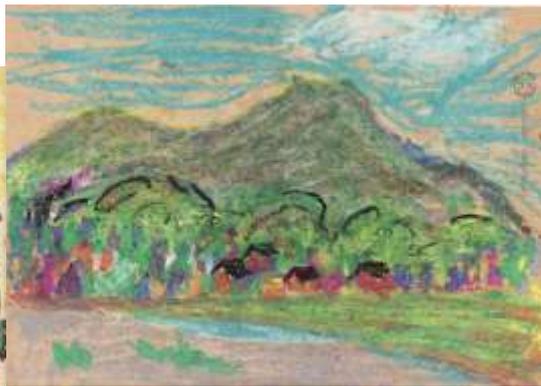


昭和37年商卒
加茂治男

六〇年前にタイムスリップ

三年前の春にA3サイズの封書が、私に届いた。開けると、絵が三枚と作文、それから小学校の先生からの手紙が入っていた。(疎開先の小学校、

福井県武生東小学校、昭和二十三、二十四年)先生(八十四歳)の手紙では、「古い宝物の箱を開けたら、懐かしい皆さんの作品があり、あの頃を思い出して楽しい気分になりました。」とのことだった。よく見ると私の子供だった頃(小学三・四年)、画いた絵と作文である。



秀峰「日野山」。武生(府中)は紫式部の父親が赴任し訪れた越前の国府があったところ、紫式部は日野山を観て読んだ歌がある



先生から届いた 60 年前の作品

思わずタイムスリップし、戦後の混乱していた時代に、よくこんな絵が画けたなと感心し、どうして先生がこれらを大切に持って置いて下さったのだろう。当時の同級生に連絡したところ、クラスの全員（所在のわかる人）に作品を送られたようだ。これがきっかけで、六十年ぶりにクラス会が開催され（武生にて）、参加した。涙、涙の再会、先生も元気で、昔の新米先生のまま、当時食べること一杯の時代に、子供たちに飴玉を一つずつ与え、近くの野山でも楽しく遊び学んだことを思い出す。

戦後教育が混沌としていた時代、一生懸命子供たちのことだけを考えた心豊かに接してくれた先生のお陰で、優しさと生き方を教えられた様な気がする。小学校の先生によって、人格形成が成るといふのは私には当たっている。

いま、教育とは何かをもう一度考えたい。

昭和三十七年商卒 加茂治男

明早ラグビー観戦記



昭和33年政経卒 吾郷春男

昨年十二月六日、宇都宮柏地域支部長と信濃町駅で待ち合わせした。十時試合開始というのに、十二時二

十分改札口周辺は明早戦応援とおぼしき待ち合わせグループで混雑していた。その中に若干見覚えのある顔があった。帰路宇都宮先輩に確かめたところ、流山支部の校友で十一名集まっていたとのこと。

神宮外苑の歩道は長蛇の列、その流れに従って我々二人も十分後、国立競技場へたどり着いた。電光掲示板が対面に見える明治側の高い席に陣取った。円形階段応援席から振られる旗は欲目からか明治紫紺の方が多く、心強かった。両校応援団がロイヤルスタンド前に整列、エールの交換が始まった。伝統の一戦の緊張の雰囲気がいやが上にも盛り上がってきた。早稲田は明治に勝てば対抗戦優勝、明治は既に三敗で五位。然し明早戦勝敗の行方は勝率では計れない。勝敗にこだわらず気迫でぶつかる故北島忠治総監督の「前へ」がどれだけ発揮できるか。北島明治魂をどの程度、吉田義人新監督が明治ラグビーに浸透させつつあるか。興味津津で試合開始を待った。

期待に違わず、開始早々から、明治の出足は鋭く、低いタックルで早稲田の前進をくい止めて行く。早いモール攻撃を見せて三十米突破、先制トライ。三万人超のスタンドが沸き、旗が激しく揺れた。往年の気迫の明治ラグビーの一端をみせてくれた。歓喜。勢いに乗って明治はバック展開、二個目のトライ・ゴール。

前半は早稲田をノートライ一四対三で制し感慨一入。



国立競技場を埋め尽くした明治の応援風景

後半、相手の選手交代からパス展開を許し逆転された。明治は残り五分間で逆転に転じ、あわよくば再逆転のトライか、ペナルティーゴールでも一点差で勝利と期待したが、ロスタイムで不運のスローフォワード、万事休して二点差で敗れた。あと一歩まで相手を追い詰めた明治の闘志に感動した。敗戦にも屈辱感ではなく、爽快感さえ覚えた。隣席で終始紳士的態度で応援された宇都宮先輩も同じ感慨だったと思う。来年は柏支部からも、もっと多くの応援団を仕立て、よろこびを共有できたら、

私と第九

すばらしいのだがと思いつつ校歌のこだまする競技場を後にした。

昭和三十三年政経卒 吾郷春男



昭和55年商卒 勝俣清三

私の住んでいる柏市豊四季は流山市との境で、新聞や広告などで毎日流山市の情報が入って来ます。あれは三年前の夏広報なげやまに「市民でベートーベンの第九を歌いませんか？」という募集が載っていました。私は柏市民でしたが、迷わず応募しました。二〇〇七年の十二月の演奏会の為に、第九の初心者はもとより歌をあまり歌ったことのない人の為に六月から練習が始まりました。毎週日曜日に流山の市民公民館やコミュニティセンターなどで練習をし、また流山フィルハーモニーとも合わせ、本番に臨みました。ベートーベンの第九を流山で演奏するのは十五年振り、今回は流山の市制四十周年のイベントとして流山の市民文化会館で十二月の土日の二日間で演奏することになりました。

私は学生時代に音楽に親しみ、中学、高校では吹奏楽、また大学では約三ヶ月間フロイデという混声合唱団に入り歌を歌ったことがあります。

だが、会社勤めのサラリーマンでしたので、音楽とは約三十年以上も付き合ひがありませんでした。しかし、今回の演奏会を一つのきっかけとして、音楽活動を再開し、また第九という大曲を歌い上げたいと思い参加しました。

毎週日曜日の練習はきついながらも快いものでした。男声パート練習、その後混声の練習、十一月が近づいてきてオーケストラと合同練習。あつと言う間の半年でした。



2007年12月16日、流山市文化会館

演奏会は土曜と日曜の二日間に渡って演奏されました。男性は土日とも参加し、女性は参加者の関係でどちらかの日の演奏となりました。流山フィルハーモニーと流山第九合唱

団が一体となって演奏し、またドイツ語の歌詞も覚えて思いきり歌いました。あの感動は今でも忘れません。今回の演奏会で流山市民や柏及び東葛飾地区で合唱をしている方をはじめ歌う方々と知り合うことができました。しかし合唱団はその演奏会後解散されました。私はその後、流山の合唱団に入り現在も歌を続けており、昨年十一月の千代田区第九演奏会や今年二月の五千国技館第九でも演奏をしました。今年の暮もどこかの演奏会に参加して歌っていると思います。

昭和五十五年商卒 勝俣清三

定期ゴルフ大会報告

平成二十二年六月九日(水)に紫カントリークラブ・あやめコースにおいて第四回柏・流山地域支部ゴルフ大会が開催されました。参加人数は二十名(柏十二名、流山八名)猪瀬千葉県西部支部長も参加され、前半多少の雨がりましたが、一日中曇り空で暑くもなく、林間コースの新緑のもとで和気藹々、また真剣にプレーを楽しみました。優勝者は光崎親一氏(流山)準優勝者は防護武氏(流山)三位は佐藤雅昭氏(流山)となり、今回は流山地域支部の強豪が上位を独占しました。

次回は柏地域支部が幹事となり十月に開催の予定です。是非とも多数のご参加をお願いします。

役員の変更

総会において役員任期満了に伴う改選が審議され、地域支部長・副支部長・監査委員・幹事長は以下のとおり選任されました。

- 地域支部長 昭28商 宇都宮幸正
- 同副支部長 昭29政 萩原功
- 同副支部長 昭29商 山内勇(新)
- 同副支部長 昭31経 山澤治明
- 同副支部長 昭44経 坂巻真一
- 監査委員 昭30政 渡邊福次郎
- 監査委員 昭42法 佐々木利夫
- 幹事長 昭37商 加茂治男



第4回柏・流山支部ゴルフ大会 (6月9日)

イベントのお知らせ

●明治大学全国校友山形大会
九月四日(土)前夜祭
九月五日(日)本大会
於 山形県民会館大ホール

●ホームカミングデー
出席御希望の方はご連絡下さい。十月十七日に本校で開催します。今年には昭和三十五年、四十五年、五十五年、平成二年、平成十二年卒の方が招待の対象です。

●ゴルフ大会

次回は十月開催予定です。詳細は加茂幹事長まで

●講談観賞会

寶井講談修羅場塾第五十二回公演、十二月五日(日)、お江戸日本橋亭、本会会員の佐々木利夫(琴山)さんが出演予定です。

●合唱鑑賞会

第2回白いうた青いうたフェスティバルの、十二月十八日(土)野田市文化会館、本会会員の勝俣清三さんも歌う予定です。

●新春の集い

来年一月二十三日(日)午後一時 於 麗宮飯店(柏駅西口) (予定)

訃報

平成二十二年一月六日、昭和三十八年卒本会幹事、菊地康隆様が逝去されました。

平成二十二年一月十三日、昭和二十六年卒本会会員、成嶋二四様が逝去されました。

平成二十二年五月二十一日、昭和四十年卒本会幹事、国方浩二様のご逝去されました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。